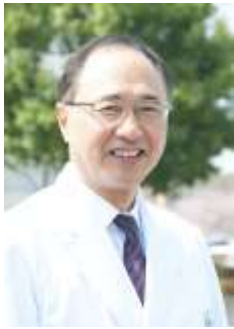


2016年3月22日に『名医のセカンドオピニオン スペシャル』をテーマにして放送された内容を、番組を見逃した方のために記事でご紹介します。



長引く治らない症状 本当の原因をもう1度探ります！ ～ 名医のセカンドオピニオンSP ～

全身至るところで起きる原因不明の痛み。そんなしつこい身体の痛みの原因を解明し、多くの患者さんを救い続けてきた名医が、山形県山形市にある東北中央病院 病院長の田中靖久先生。その功績が注目を浴び、2012年と2014年に全国の医師たちが選ぶベストドクターにも選出された。まさに痛みのスペシャリストだ。そんな田中先生によって救われたセカンドオピニオンの症例とは？

【 整形外科のスペシャリスト：田中靖久先生によって救われたセカンドオピニオンの症例 】

「便秘による腹痛」と診断された脇腹の痛み
痛みのスペシャリストが探り当てた病の正体とは！？

主婦のF・Aさん（46歳・女性）は、左の脇腹にジーンとする鈍い痛みを感じた。翌日以降も連日、脇腹の痛みに襲われ、回数も1日に2回、3回と頻度が増えていった。心配になったF・Aさんは近所の内科を受診。触診した医師からは、【便秘による腹痛】と診断された。さっそく処方された整腸剤を服用すると、便秘は改善。お腹の張りも感じなくなったが、数時間後再び左脇腹の痛みに襲われ、翌日になっても痛みは治るところか、頻度も増していくばかりだった。

数日後、それまでとは比べものにならない猛烈な痛みが左脇腹を襲い、救急車で病院に運ばれたF・Aさん。医師は【尿管結石】を疑うが、検査入院しても結石は見つからず、他の病院を回っても異常は見当たらなかった。これまで総合病院の内科、婦人科、整形外科、大腸専門のクリニックなど6軒もの病院でお腹回りを徹底的に調べたが原因不明。そのため、ある医者からは「何かストレスがあるんじゃないの？」、「精神科に行った方がいいよ」などと言われた。更に、原因がないのに痛がっているから、医者からは邪魔者扱いされているように感じたこともあり、F・Aさんもいつしか、【もしかしたら本当に心の病かもしれない…】と深刻に悩むようになっていた。

そんな中、F・Aさんは痛み止めを処方してもらうため、以前受診したクリニックを訪れた。そのとき、医師から紹介された名医こそ、東北中央病院病院長の田中靖久先生だった。はたして、名医が下すセカンドオピニオンは！？（裏面に続く）



【 セカンドオピニオン 】とは？

主治医と異なる別の医師に診断や治療について意見を求めることです。患者自身の意思でより良い医療を選択でき、思わぬ原因や解決法が判明することがあります。

【慢性痛の代表である肩こりや首の痛みなどの意外な原因を田中先生が解説】

首の骨が変形し神経を圧迫しているかが分かる

「首の傾け反らしテスト」を紹介

痛みの治療の名医 田中靖久先生が、女性が悩む症状第1位『肩こりや首の痛み』などの意外な原因を解き明かす。

肩こりと言うと、原因は筋肉をイメージされるはず。しかし、近年の研究で筋肉のコリ以外のある原因がわかってきた。肩こりや首の痛みが筋肉とは別の原因の場合、マッサージや湿布では効果がなく、一向に良くならない可能性もある。

田中先生はテレビ収録のスタジオで、肩こりや首や首の痛みの意外な原因がわかるテストを紹介。意外な原因が簡易に診断できる。

【首の傾け反らしテスト】

もし痛みが出たら … 筋肉のコリとは別の原因の可能性が！？

- ① 手の力を抜いてリラックスする
- ② 症状のある側に首を傾げる
※無理に行わず強い痛みが出たらすぐに中止してください。
- ③ そのまま首を後ろにそらす

これで痛みがある場合、神経根の圧迫による痛みの可能性がある。

首の傾け反らしテスト → 痛みが出れば → 神経の圧迫が疑われる

神経の圧迫 = これこそが、気を付けるべき肩こりの原因
圧迫された側の肩や首などに痛みが出る



さて、このような症状の場合、どうすれば治る？

田中先生の解説では、『生活習慣を変えるだけで治る可能性がある』

【簡単改善法】

1. 神経圧迫の疑いのある人は、できるだけ首を反らさない
2. 枕が大切 → 枕が低いと首が反ってしまうのでダメ
やや高め枕がいい（少なくとも低すぎる枕はダメ）

以上のように生活習慣を改善すると神経の働きが回復する場合がある。

※痛みが長く続く場合は専門医を受診してください。

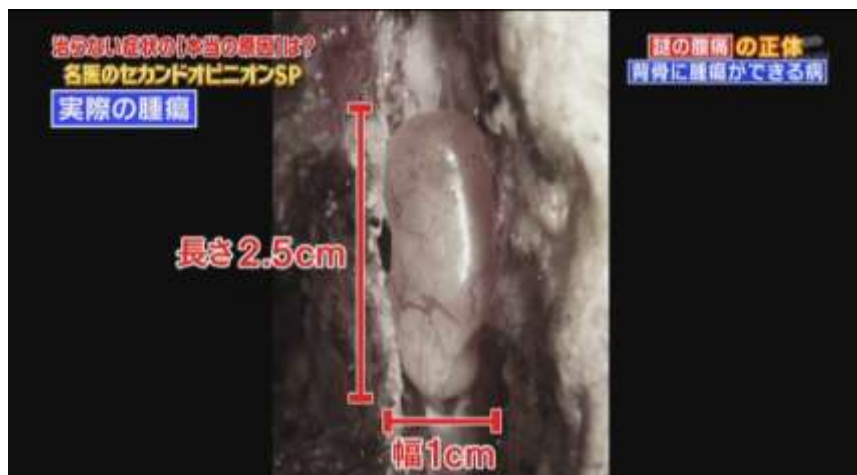
胸のMRI検査 → 胸の脊髄の中から大きな丸い物体

【胸椎にできた脊髄腫瘍】

原因は不明で10万人あたり1人～2人しか発症しない珍しい病

特徴：痛みが不規則に出る

間もなく、F・Aさんに【腫瘍摘出手術】が施され、手術は【無事成功】
現在、F・Aさんは新しく生まれた2人の子供と家族5人で充実した日々を過ごしている。



では、どうやって田中先生はお腹の痛みの原因が胸の脊髄にあると判断したのか？

その手掛かりこそ、田中先生の頭の中にある人体の神経分布図である。痛む場所とその神経が通る大元の場所は違うことを意識し、人体の神経分布図を思い浮かべながら、痛みが出ている本当の場所を探った。F・Aさんの場合、痛む場所はT10神経が走っているところであることを突き止めた。痛みの元から、痛みの出発点が胸の脊髄であることを探り当てたのである。



謎の腹痛の正体 → 原因は **お腹ではなく【 ??? 病 】**

「田中靖久先生」はどのような方法で【本当の原因】を探り当てるのか？

一縷（いちる）の望みをかけ田中先生のもとを訪れた F・A さん。いよいよ痛みの名探偵「田中靖久先生」による診察（痛む場所の特定）が始まった。問診は病気の原因を探るための重要な手掛かり。田中先生は F・A さんから症状のある場所や痛みのある場所などの正確な情報を聞き出すため、時間を掛けて問診を繰り返した。田中先生の診察は、まさに F・A さんの心に寄り添った丁寧な診察であった。

田中靖久先生の診察のスタイルは、

- 1) 患者さんの苦しみ・悩みに寄り添った診察
- 2) 十分に時間を掛けた丁寧な診察
- 3) 患者さんの緊張をほぐすため、世間話などを交えながらの心優しい診察

問診と幾つかの検査をおこなったが、名医とは言え、すぐに F・A さんからの病気の原因を探ることができなかった。そのため、田中先生は同じ問診を最初から繰り返し、さらに痛みに関する掘り下げた問診を開始することにした。すると、F・A さんが痛みの場所は『おへその左側から背中にかけてやや広い範囲で…』と自信なさげに話す。田中先生はその一言を聞き逃さなかった。痛みがある場所と痛みの原因がある場所は同じとは限らない。先生は知覚検査をおこなうことにした。田中先生ならではの診療器具「千枚通し」を取り出し、痛みを訴えた場所から何かをたどるように背中へ向けて、皮膚を軽く刺激していく。

病の原因を究明 → 驚くことに **10万人に1人～2人しか発症しない** 珍しい病気！

「田中靖久先生」の診断結果は！？ 治らない症状の【本当の原因】は！？

知覚検査の結果、痛みは背中にかけて帯状に広がっていることが分かった。そこで、田中先生は F・A さんに『胸椎の MRI 検査をやってみましょう』と告げる。痛みの場所がお腹なのに、なぜ、胸部の検査をするのか？ 疑心暗鬼の F・A さん。ただ、F・A さんは、藁（わら）をも継（すが）る思いで、田中先生が勧めた検査を受けることにした。

MRI 画像に写し出された病の正体は、

